

観察記録

## 岡山県梶並川で確認されたナガレホトケドジョウの記録

鳥取環境大学環境情報学部 小林 朋道\*  
津山市立高田小学校 小林 俊道

### Records of Fluvial Eight-Barbel Loach *Lefua* sp. from the Kajinami River, Okayama Prefecture

Tomomichi KOBAYASHI, Faculty of Environment and Information, Tottori University of Environmental Studies,  
and

Toshimichi KOBAYASHI, Tsuyama Takada Municipal Elementary School

キーワード：岡山県，梶並川，生息地の保全，ナガレホトケドジョウ。

#### はじめに

ナガレホトケドジョウ *Lefua* sp. は未記載ではあるがホトケドジョウ属 (*Lefua*) の日本固有種であり，おもに東海地方の一部と瀬戸内地方に分布する (細谷, 2003)。山間の小川の細流，本流や支流の最上流部に生息し，浮遊動物や底生小動物を餌にする (岡山県生活環境部自然環境課 2003)。本種は全国版レッドデータブック (RDB) のEN (絶滅危惧IB類) と評価されているが，そ

の生息状況は充分には明らかにされていない (原, 2003)。岡山県では，河川最上流部の河川開発，水質汚染などによりその生存が危ぶまれており，危急種に指定されている (岡山県生活環境部自然環境課, 2003)。

筆者らは，岡山県梶並川の谷あいの細流および湧水の流れ込むたまり2箇所において本種の生息を確認したので，2, 3の行動特性等と合わせて報告する。

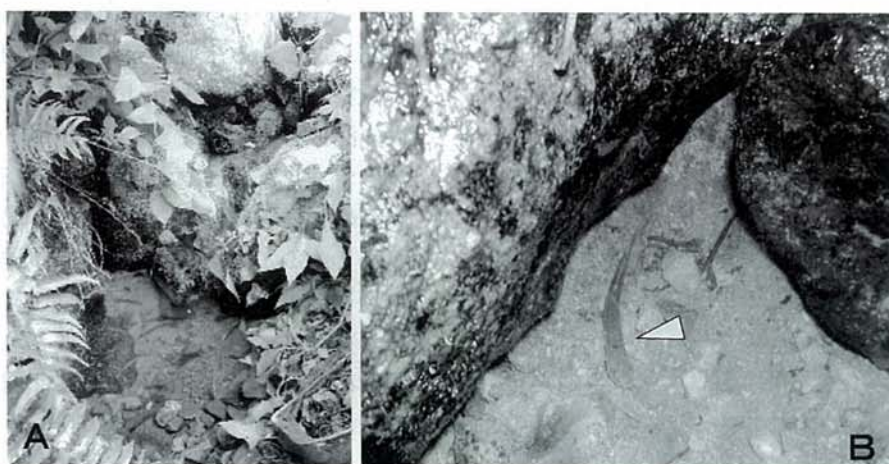


図1. ナガレホトケドジョウの生息が確認された谷あいの細流。A: 概観, B: 複数のナガレホトケドジョウ (白矢印) が出入りしていた入り組んだ窪み。

\*連絡先: t-kobaya@kankyo-u.ac.jp

### 調査地

生息が確認された谷あいの細流は、岡山県美作市右手の山間部を流れる幅30cm程度、深さ20cm程度の水域（標高約350m、図1A）である。

### 結果と考察

2005年8月15日16:00頃、細流底の直径10cm程度の石を持ち上げたところ、下からナガレホトケドジョウと思われる個体が発見されたため、網で採集した。ホトケドジョウ (*L. echigonia*) では見られる、体の背部・側部、背鰭、尾鰭の黒色斑点が採集個体には認められず、吻側部の暗色斜帯（図2）が明瞭であること、さらに、腹鰭起点

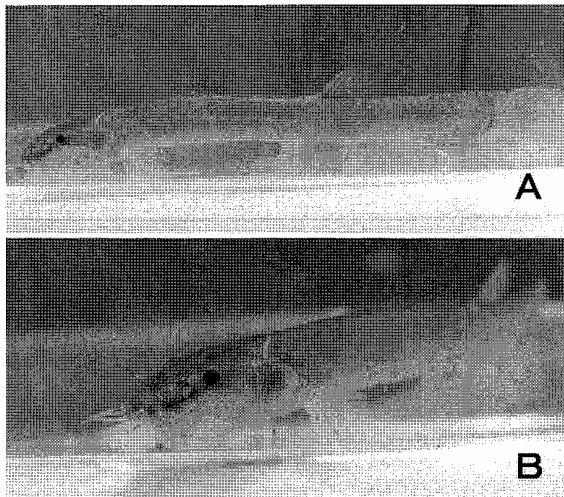


図2. 捕獲されたナガレホトケドジョウ。A:全体像、B:吻側部を拡大したもの。暗色斜帯が明瞭である。

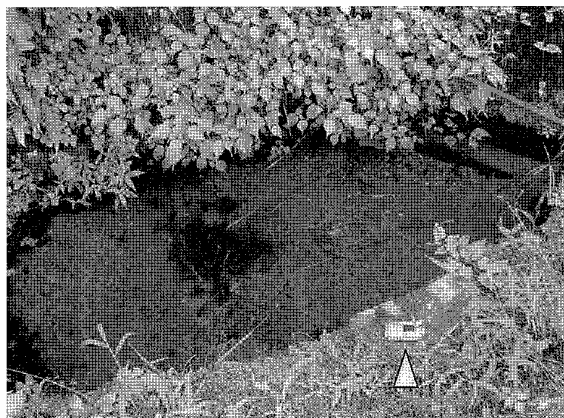


図3. ナガレホトケドジョウの生息が確認されたたまり。白矢印は携帯電話。

は背鰭起点より明かに前方に位置している（細谷、1993）ことからナガレホトケドジョウと同定した。発見後、個体の行動の様子や生息場所の水質、その場所で見られた他の動物などを調べ、以下のような特性が見られた。

ホトケドジョウは、中が深くえぐられた石の下（図1B）から出て周辺を泳ぎまわり、やがて石の下に入っていった。筆者らの動きに驚いたときも、素早く同じ石の下に逃げ込んだ。約1時間程度の観察の間に8匹ほどのホトケドジョウが同一の石の下から出入りし、他の場所へ入る例は一度も観察されなかった。これまで、自然条件下での観察報告はほとんどなく、多数の個体が同一の場所を利用するという現象は興味深い。泳ぎ方は、これまでの報告にあるように（森ほか、2000）、水底での移動しながら、時折浮かび上がって水面近くを泳ぐという、ドジョウ科の魚では珍しいパターンであった。ナガレホトケドジョウが発見された細流の場所では、カワゲラ類、ヨコエビ類、大小のサワガニが見られた。水質に関しては、pH7.0~7.2、リン酸0.05ppm以下、アンモニウム0.2ppm以下、COD2ppm以下（共立理化学研究所パケットテスト）であった。

ナガレホトケドジョウが確認されたもう一方の場所は、約2m×1m、深さ30cm程度のたまり（標高約350m、図3）であり、山からの伏流水が池の一角に滝のように落ち込んでいた。2005年8月15日18:00頃、池の中に多数のナガレホトケドジョウと思われる個体が発見されたため採集して確認したところ、細流での発見個体と同様な特徴が観察され、ナガレホトケドジョウと同定した。この池には、確認できただけでも、50匹以上の大小のナガレドジョウが生息し、明るい間は、池の周囲の石の隙間に入っている個体が多いが、周囲が暗くなると、それらの個体が泳ぎ出し、水底と中層とを遊泳し、時々水面近くに口を近づける個体も見られた。この池で捕獲された最も大きい個体は、全長83mmに達し、これまでの報告に記載されている「最大全長約70mm（細谷、2003）」を超えるものであった。ナガレホトケドジョウが生息するこのたまりにはたくさんのサワガニやタニシ類が確認された。水質に関しては、pH7.0~7.2、リン酸0.05ppm以下、アンモニウム0.2ppm以

下, COD2ppm以下(共立理化学研究所パックス)であった。

今回ナガレホトケドジョウが発見されたような谷間の細流は美作市右手の山間部には多く見られ, それらの細流でもナガレホトケドジョウが生息している可能性は高い。今後のより詳細で広範囲にわたる調査と, それに基づいた保護対策が望まれる。

### 引用文献

原竜也, 2003. 鳥取県におけるナガレホトケドジョウの初記録. 山陰自然史研究(1): 10-12.  
細谷和海, 1993. ナガレホトケドジョウ. 中坊

徹次(編)『日本産魚類検索-全種の同定-』, p.235, p.1261. 東海大学出版会, 東京.

細谷和海, 2003. ナガレホトケドジョウ. 環境省(編)『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-4. 汽水・淡水魚類』, 108-109. 財団法人自然環境研究センター, 東京.  
森文俊・内山りゅう・山崎浩二, 2000. 淡水魚. 281pp. 山と溪谷社, 東京.

岡山県生活環境部自然環境課, 2003. 岡山県版レッドデータブック-絶滅のおそれのある野生生物-. 465pp. 財団法人岡山県環境保全事業団.